

# 全国漁業信用基金協会岩手支所

## 1. 地域概要(位置、気候、風土、漁業の状況等)



チャグチャグ馬コ 写真:岩手県観光協会提供

岩手県は東北地方の太平洋側に位置し、県庁所在地の盛岡市は奥羽山脈と北上高地に挟まれており、北には通称南部富士の岩手山、東には岩手山から喧嘩別れしたと言われております姫神山、南東には北上高地の中でも一番標高の高い早池峰山が雄大にそびえており、自然豊かな環境の中に位置しております。また、盛岡市は盆地であることから、夏の気温も高く、冬には本州の県庁所在地で寒さが一番厳しいと言われております。

岩手県は江戸時代に県北部を南部藩、県南部を伊達藩が支配する事から、方言や慣習の差異を多く見ることができます。盛岡弁を巧みに使い、聞き取る話術はなんとも頼もしいところではありますが、人柄はおっとり屋で心の優しい人が多いと言われており、住みやすい土地柄と思われれます。

漁業の特徴といたしましては、本県沿岸域は12市町村からなり、沿岸線の総延長は708キロメートルにも及び、宮古市以北は隆起海岸地帯、以南はリアス式海岸と呼ばれる沈降海岸地帯となっております。

漁業としては、定置・沿岸・養殖・採介藻漁業が

中心で、定置漁業は漁協が中心となり、県内111ヶ統を有する定置漁場があります。沿岸漁業はイカ漁、イサダ漁で、養殖漁業ではワカメ、コンブ、ホタテが中心、採介藻漁業では、ウニ、アワビとなっておりますが、近年の温暖化等の影響により、いずれの漁業においても水揚量が減少傾向となり、漁業を取り巻く環境は厳しい状況にあります。

漁業関係の最近の話題としては、秋サケの水揚げ減少対策として、トラウトサーモンの魚類養殖を行う漁協が出てきておりますが、今後秋サケの水揚げ減少の対策になるのか様子を見守る必要があるものと思っております。

盛岡市の地元の祭りと言えば、「盛岡さんさ踊り」があります。例年8月1日から4日間、市の中央通りを中心に踊り手と太鼓、笛で構成される太鼓パレードは盛大な祭りとなっております。

また、6月の第二土曜日は、100頭程の農耕馬に装飾を施し、豊作を祈念する「チャグチャグ馬コ」が開催され、盛岡市と滝沢市の2市を堂々と練り歩く姿は初夏の伝統行事となっております。

郷土料理は、盛岡三大麺の「冷麺」、「じゃじゃ麺」、「わんこそば」があり、県内外問わず愛されております。



冷麺 じゃじゃ麺 わんこそば 写真:岩手県観光協会提供



## 2. 岩手支所の概要

- ◎住所 盛岡市内丸16番1号(水産会館3階)
- ◎電話 019-623-5281
- ◎担当理事 小川原 泉
- ◎監事 金野 正明
- ◎会員数 308名
- ◎出資金残高 2,252百万円
- ◎保証残高 12,676百万円
- ◎求償権残高 5,455百万円

(平成31年3月末現在)



岩手支所の役職員の皆さん

## 3. 協会の最近の重点的な取組等

現在9つの金融機関と保証契約を締結し、過去においては農林中金、市中金融機関との保証取引から現在は県信漁連を中心に保証取引を行っております。東日本大震災以後の2、3年で県信漁連を中心に震災からの復旧・復興に係る多額の設備資金の保証を行ったことにより、これまでにない保証残高を有することになりました。現在は沿岸部

の設備投資もほぼ完了したとみられ、償還が進んだことにより、保証残高は減少しておりますが、市中金融機関と連携しながら保証残高の増加に努め、保証推進を行っております。

また、震災により多額な求償権を有する事となりましたが、対策を講じながら求償権の回収に努めていくこととしております。



秋サケの定置網漁



秋サケの定置網漁



秋サケの採卵